

令和2年度病害虫発生予察情報 特殊報 第3号

令和2年 12月 4日
広島県西部農業技術指導所

1 病害虫名 ミツユビナミハダニ
Tetranychus evansi Baker&Pritchard

2 発生作物名 ばれいしょ（品種：デジマ）

3 特殊報の内容
広島県における初発生

4 発生経過

(1) 発生確認年月日 令和2年10月20日

(2) 発生地域 竹原市

(3) 確認の経緯

広島県竹原市内のばれいしょほ場において、ハダニ類の発生が確認された。ばれいしょに寄生しているハダニ類を採取し、農林水産省神戸植物防疫所広島支所にて同定した結果、県内未発生のミツユビナミハダニであることが確認された。

(4) 他県での発生状況等

国内では、平成13年に大阪府および京都府のイヌホオズキで初めて発見され、現在までに関東以西の14都府県（栃木県、群馬県、東京都、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、愛媛県、高知県、福岡県、長崎県、鹿児島県、沖縄県）において、なす、トマトおよびばれいしょ等のナス科植物での発生報告がある。

5 本害虫の特性

(1) 本種の体長および体色は、雌成虫が0.6mm程度でくすんだ橙色～濃橙色、雄成虫が0.5mm程度で白～淡橙色である。雌雄とも体色がオレンジ色であることが本種の特徴であるが、他種の成虫も同様の体色を示す場合があるため、同定には雄の挿入器等の検鏡が必要である。

(2) ナミハダニ (*Tetranychus*) 属の中でも非常に高い増殖力を有し、適切な防除を行わなかった場合には、被害が急速に拡大する恐れがある。

(3) 寄主植物は、ばれいしょ、トマト、ミニトマト、なす、ピーマン、とうがらし、パプリカ、イヌホオズキ、ワルナスビ等のナス科植物に特化している。

(4) 休眠性は示さず、耐寒性は低いとされているが、本県では成虫が越冬する可能性がある。

6 被害の特徴

主に葉裏に寄生し、発生初期には葉表に小斑点を発生させ、多発すると寄生部位が白化し、高密度となると枯死に至る。

7 防除対策

(1) ほ場周辺やほ場内のイヌホオズキやワルナスビ等のナス科雑草は、ミツユビナミハダニの発

生源となるので除草に努める。

- (2) ばれいしょでは本種に対する登録農薬は無いが、野菜類またはイモ類で気門封鎖型殺虫剤の登録がある。また、なすやトマトで発生した場合、各作物に適用登録がある殺ダニ剤の効果は高いとされるが、増殖能力が高いため早期に防除を行う。
- (3) ハダニ類の捕食天敵であるミヤコカブリダニやチリカブリダニは、ミツユビナミハダニをほとんど捕食しないため、本種に対する防除効果は期待できない。

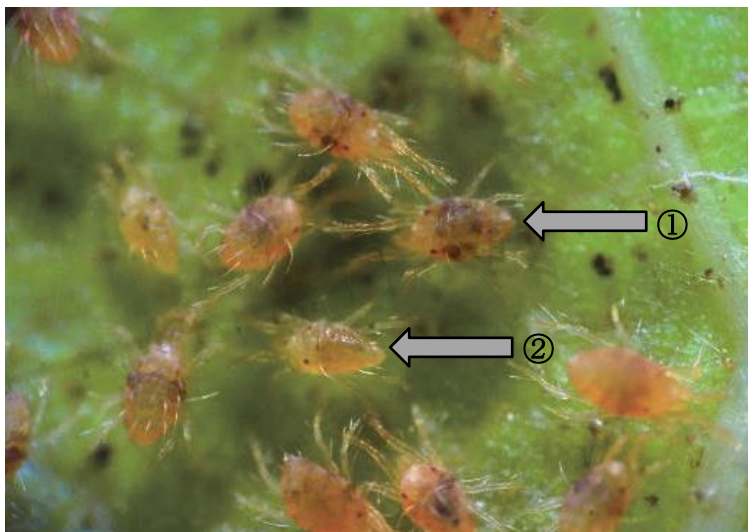


図 ミツユビナミハダニの雌雄成虫 (①雌 ②雄)

出典：植物防疫所病害虫情報 第109号 (2016年7月15日)

8 引用文献

植物防疫所病害虫情報 第109号 (2016年7月15日)

栃木県 (2018) 平成30年度病害虫発生予察特殊報第2号

愛媛県 (2019) 令和元年度病害虫発生予察特殊報第2号

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先

西部農業技術指導所 (植物防疫チーム)	(〒739-0151 東広島市八本松町原 6869	電話 082-420-9662)
農林水産局農業技術課	(〒730-8511 広島市中区基町 10-52	電話 082-513-3559)

○病害虫発生予察情報は、広島県ホームページで閲覧できます。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nougijutsu/>(ひろしま農業情報)